

巻頭言 理事長就任のご挨拶



日本教職員バドミントン連盟会長
理事長 歸山 好和

JEFニュース発刊に際しまして、ご挨拶を申し上げます。まず、2年間に渡る全日本教職員バドミントン選手権大会中止について皆様方には大変ご迷惑をお掛けしております。今年度につきましても新型コロナウイルス感染症拡大・緊急事態宣言やまん延防止等重点措置の発令に伴い、断腸の思いで中止の決断をさせて頂きました。来年度については日本教職員バドミントン連盟創立60周年記念祝賀会も企画しておりますので、是が非でも愛媛県大会の開催実施が出来ればと願っています。

さて、改めて自身の紹介をさせていただきます。昭和52年度バドミントン部の指導と共に埼玉県高体連バドミントン専門部委員として専門部の仕事に初めて携わり、埼玉県高体連バドミントン専門部委員長・関東高体連バドミントン専門部委員長から全国高体連バドミントン専門部部長を務めさせて頂き、高校教員生活のほとんどを専門部の中で貴重な勉強をさせて頂きました。また、今年度から(公財)日本バドミントン協会のジュニア強化部長を経て、選手強化本部・本部長を仰せつかり、日本のバドミントンを確実に世界の頂点へとスタッフ・コーチの皆様と共に日々奮闘しています。そして、新たに日本教職員バドミントン連盟理事長を拝命することとなり、身の引き締まる思いで全国の会員の皆様方と共に大いに盛り上げていく所存であります。コロナ感染症の影響も10月現在はかなり抑えられている現状になってきました。今年度については全国小学生ABC大会こそ中止になりましたが、全国中学生大会やインターハイがなんとか開催され、この後インカレも開催予定です。この状況が更に改善されて平穏な通常の日常が戻ってくることを祈念しています。

更に今年は世界最大のスポーツの祭典、東京2020オリンピック・パラリンピックが行われました。まずオリンピックの結果を改めてお伝えすることにします。日本は渡辺勇大選手・東野有紗選手が混合ダブルスで初の銅メダルを獲得することが出来ました。新たな分野でのメダル獲得は可能性を確実に伸ばしてくれる素晴らしい活躍だったと思います。それ以外の種目、第5位入賞:男子ダブルス遠藤大由選手・渡辺勇大選手、園田啓悟選手・嘉村健士選手、女子シングルス奥原希望選手、山口茜選手、女子ダブルス福島由紀選手・廣田彩花選手、永原和可那選手・松本麻佑選手となっています。またパラリンピックでの日本の活躍は言うま

でも無く国民の皆様が応援する中、金メダル:男子シングルスWH2梶原大暉選手、女子シングルスWH1里見紗李奈選手、女子ダブルスWH1-WH2里見紗李奈選手・山崎悠麻選手、銀メダル:女子シングルスSU5鈴木亜弥子選手、銅メダル:女子シングルスWH2山崎悠麻選手、SU5杉野明子選手、男子ダブルスWH1-WH2村山浩選手・梶原大暉選手、女子ダブルスSL3-SU5伊藤則子選手・鈴木亜弥子選手、ミックスダブルスSL3-SU5藤原大輔選手・杉野明子選手、第4位入賞:男子シングルスWH1村山浩選手、SL3藤原大輔選手、女子シングルスSU5亀山楓選手、第5位入賞:男子シングルスWH1長島理選手、SU5今井大湧選手、女子シングルスSL4藤野遥選手、第7位入賞:女子シングルスWH2小倉理恵選手と本当に素晴らしいものでした。しかし、結果を見るとメダルに届かなかった選手たちには新型コロナウイルス感染症の影響で一年延期になるという前代未聞のオリンピックが、日本選手は勿論のこと諸外国の選手たちにも多大な影響があったようです。当然日本は自国開催という状況の中で確実に照準を合わせてきました。2019年の世界選手権大会・金メダル:2個、銀メダル:3個、銅メダル:1個、2019年のワールドツアーファイナルズ・金メダル:1個、銀メダル:2個、銅メダル:3個と言うように前年までの結果は顕著に表れています。そして大会にかかる期待度の高さから選手にかかるプレッシャーは理解出来ないほどの大きさだったと思われる中で、選手たちは本当に必死に頑張ったと思います。残念ながら想定した結果が出せなかった選手たちや次代を狙う選手たちには今回の反省を生かし次回パリオリンピックで大活躍をしてくれることを信じて待ちたいと思います。

最後に日本教職員バドミントン連盟も高橋前理事長の活動方針を踏襲しながら微力ではありますが、これから全身全霊で取り組む決意であります。皆様のご指導・ご鞭撻を更にお願ひをして巻頭のご挨拶といたします。

目次

巻頭言
令和三年度 総会資料
TOKYO2020特集
表紙の人